

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成22年度病害虫発生予察特殊報第2号について

このことについて、下記のとおり発表したもので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ (www.jpjn.ne.jp/kagoshima) にも掲載しています。

病害虫発生予察 **特殊報第2号**

平成22年10月15日
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 アフリカシロナヨトウ（ヤガ科，ヨトウガ亜科），*Spodoptera exempta* (Walker)

2 作物名 イネ科牧草（ローズグラス，ネピアグラス），サトウキビ

3 発生確認及び発生状況

2010年9月中旬に大島郡喜界町のイネ科牧草で，9月下旬には牧草地に隣接するサトウキビ（夏植え新植）でもヨトウ類幼虫による葉の食害が確認された（写真1，2）。成虫を独立行政法人農業環境技術研究所の吉松慎一博士に同定依頼した結果，アフリカシロナヨトウと確認された。

本種は，これまで日本では成虫がまれに採集されたのみで作物への被害の報告はなかったが，2010年8月に沖縄県の多良間島と西表島でイネ科牧草とサトウキビで発生が確認された。本県では，奄美群島内の関係機関等に問い合わせた結果，10月14日現在喜界島のみで発生が確認されている。喜界町等の調査によるとローズグラス等の牧草で約50ha，サトウキビでは約2haで被害が認められた。

4 形態及び生態等の特徴

(1) 分布

フィリピン，マレーシア，スリランカ，オーストラリア，ハワイ，アフリカなど。

国内では沖縄本島，静岡県，小笠原諸島で成虫の採集記録があり，作物への被害は2010年沖縄県の一部（8月）に次いで，本県喜界島（9月）で初めて認められた。

(2) 形態及び生態

ア 成虫の開翅長は雌が約30mm，雄が約28mm（写真3，4）。前翅は灰褐色から暗褐色で楕円形と腎臓型の斑紋が見られる。後翅は茶褐色から灰褐色で，褐色の翅脈線及び前縁は暗褐色で縁取られる。成虫寿命は約10日間。成虫は夜行性で，長距離移動することが知られている。

イ 卵は葉上に卵塊で産み付けられ，鱗毛が付着する。1卵塊は100～400卵程度。1雌当たり約1,000卵を産卵する。卵期間は2～4日。

ウ ふ化直後の幼虫は白色で，その後3齢までは緑色。密度が高くなった群生相では，体色が褐色から黒色になり頭部も黒化する（写真5）。幼虫期間は2～3週間とされる。

エ 老齢幼虫は地表面から2～3cm程度土中に潜り，蛹室内で蛹化する。蛹は赤褐色で体長は約17mm（写真6）。蛹期間は7～12日。

オ 本種はハスモンヨトウやシロイチモジヨトウ等と同属で，突発的に大発生することがある。

(3) 被害

ア 海外ではイネ科植物以外の寄主植物が知られているが，喜界島は，沖縄県と同様にイネ科牧草，サトウキビ，イネ科雑草等のイネ科植物だけで被害が確認されている。

イ 幼虫が多発した牧草ほ場では中肋を残して葉が食べ尽くされ，幼虫が集団で道路を横断した

り、隣接したサトウキビほ場に移動して食害するのが認められた。
ウ サトウキビでは夏植え新植ほ場の一部で被害が発生している。

5 防除対策

- (1) 幼虫が多発すると、新葉が食べ尽くされる場合があることから、ほ場をよく見回り幼虫の早期発見に努める。
- (2) イネ科牧草で発生を認めた場合は、被害が少ないうちに刈り取り、反転・集草するとともに、ほ場の周辺のイネ科雑草も除去する。



写真1 幼虫による牧草ほ場（ローズグラス）の被害状況



写真2 サトウキビの食害



写真3 雌成虫



写真4 雄成虫



写真5 黒化した群生相の老熟幼虫



写真6 蛹